

ラテンアメリカとアメリカ合衆国

今回学ぶこと

アメリカ・スペイン（米西）戦争（1898年）に勝利したアメリカ合衆国は「パンアメリカニズム」政策を推進し、南北アメリカ大陸の多くの国々がそれに従った。1959年に反米革命を成功させたキューバはソ連と関係を深めアメリカ合衆国との国交を断絶したが、2015年に国交を回復した。現在のアメリカ合衆国社会では、スペイン語諸国からの移民とその子孫である「ヒスパニック」がすでにアフリカ系人口を超えており、文化的・社会的・政治的に大きな影響力を及ぼしている。

調べておこう・覚えておこう

- パナマ運河建設の前と後では、世界の物流にどのような違いが生まれたのだろうか。パナマ運河が果たしてきた役割について調べてみよう。
- 「ヒスパニック」と総称される人々は、いろいろな国からアメリカ合衆国に来ている。どの国からどのくらい来ているのか、調べてみよう。
- 有名なヒスパニックのスポーツ選手やアーティスト、政治家を調べてみよう。一般労働者も含めヒスパニックが急にいなくなったら、アメリカ合衆国社会はどうなるのか想像してみよう。

アメリカ合衆国の「裏庭」

アメリカ合衆国は三方向において海に面している。東の大西洋、西の太平洋、南のメキシコ湾・カリブ海である。

このうち南の海でつながる地域を、アメリカ合衆国はしっかり管理しておきたい自宅の「裏庭」と位置付けた。「裏庭」を管理するために、母屋であるアメリカ合衆国の軍事力を背景とする市場経済体制を南北アメリカ大陸に広げ、「敷地」内で共存共栄を図るという政策をとった。それが「パンアメリカニズム」である。その重要な一歩が、カリブ海・大西洋と太平洋を結ぶパナマ運河の1914年の開設と管理権掌握だった。アメリカ合衆国は「裏庭」の国々に反米政権が生まれると圧力を加え、軍事介入も辞さなかった。それでも、キューバやベネズエラ、ボリビアなどに反米政権が生まれた。

広がるヒスパニック文化

「最初のヒスパニック」とは誰だろうか？ 昔から住んでいた土地がアメリカ合衆国に併合され、あるいはその保護領になったために米国民となった、西部や南西部、プエルトリコなどのスペイン語を母語とする人々である。

20世紀半ばになると、工業化が進み安価な労働力を必要としていたアメリカ合衆国に、貧困から逃れようとするラテンアメリカの人々が押し寄せた。隣国メキシコからの移民が多数を占めたが、アメリカ合衆国は中南米諸国からの政治難民や労働移民も受け入れた。英語とスペイン語の両方を使い、一般労働者としてのみならず、市や州の政治家、国政に進出する政治家、宇宙飛行士、アーティスト、アスリートとして活躍するヒスパニックも今では数多い。一口に、ヒスパニックと総称されるが、出身地の文化的な違いを維持している場合が少なくない。

つなぐ国境、へだてる国境

フロリダ半島南端からわずか145キロに位置するキューバは、アメリカ合衆国の隣国である。1959年に革命政権を樹立し社会主義を国是としたキューバを、アメリカ合衆国は思想や体制の異なる危険な敵国とみなして1961年に国交を断絶した。

革命政権を嫌った15万人ものキューバ人が海峡を越えてアメリカ合衆国に亡命した。フロリダ海峡は両国を政治的にへだてる海になったのである。亡命者のなかには、故郷の社会主義政権打倒を目指す者が今も少なくない。1962年、ソ連のキューバへのミサイル配備がキューバ危機を招き、アメリカ合衆国は海上封鎖をしてキューバに圧力をかけた。しかし、1989年に東西冷戦が終わり、両国はスポーツや音楽の往来を再開した。

2015年には54年ぶりに国交を回復して経済協力や文化交流を正式に始めた。こうして今、フロリダ海峡は両国をつなぐ海になりつつある。

